

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-34

学校名・団体名	学校法人立命館 立命館小学校
HPアドレス	<a href="http://www.ritsumei.ac.jp/primary/">http://www.ritsumei.ac.jp/primary/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	京の杜プロジェクト～桜がつなぐ架け橋～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>世界遺産「醍醐寺」を舞台とする「京の杜プロジェクト～桜がつなぐ架け橋～」の活動に参加し、クローン桜の苗木を育てることを通じて京都の歴史を学ぶ。醍醐寺内に放置されている落葉を堆肥化することで循環型社会への関心を寄せ、最先端技術「バイオテクノロジー」で科学に触る。また、その桜を育て、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の子どもたちと「醍醐のクローン桜」を介し交流を深めていくことで、共によりよい社会を目指そうとする心情や感情を育む。</p>	

## 活動の内容

### 1. 5月20日(金)「醍醐のクローン桜」贈呈式 (醍醐寺から立命館小学校へ)

醍醐寺の方3名、KBS京都ラジオの方2名、住友林業の方2名が来られ、「醍醐のクローン桜」の贈呈式を実施しました。

この日から、鉢植えのクローン桜を児童玄関前に運び、水やり当番を決め、子どもたちによる当番活動を開始しました。実際にクローン桜が届いたことで、被災地への思いが強くなったように感じました。



### 2. 11月までの当番活動を通して

児童玄関前にクローン桜を置いたおかげで、全校児童の目にもとまることになり、たくさん子どもたちが、桜に「おはよう」「さようなら」といった声かけが自然におこるようになりました。



桜を届けるいわき市立三和小学校の子どもたちとも手紙を使った交流を始めました。

また、保護者の方々も来校されるたびにご覧いただくことができ、保護者の方々も巻き込んでプロジェクトへの関心を高めていくことができました。

秋になると、桜は紅葉を始め、葉が一枚、一枚と落ち始めました。子どもたちは紅葉の美しさを喜びつつ、葉が落ちていく様子を心配気に見守っていました。子どもたちの発案で、紅葉した葉を使った葉を作り始めました。



### 3. 10月30日(日)~11月1日(月)

三学期の贈呈式に向けて、福島県いわき市立三和小学校へ、ご挨拶と下見に出かけました。空港からの所要時間、見学場所を確定し、三和小学校の担任の先生とは、植樹だけでなく、学校間交流も含めて楽しい時間になるよう打ち合わせを行うことができました。

### 4. 2月14日(火)~2月15日(水)

一泊二日で、いよいよ被災地へクローン桜を届けることになりました。代表児童8名と教員3名で福島県いわき市立三和小学校へと向かいました。醍醐寺、住友林業、KBS京都の方々も同行して下さいました。出発直前には、小学校にKBS京都ラジオのアナウンサーの方が来られ、小学校から生出演という形で、代表児童の声をラジオで流していただきました。「桜を届けることで福島に元気を届けたい」「被災地の様子をしっかりと見てきたい」と、子どもたちは決意を述べていました。

三和小学校では、お互いの学校紹介をしたり、本校児童は「ソーラン節」を三和小学校児童は「太鼓」を披露し合いました。植樹後も給食を一緒にいただき、すっかりうちとけた様子でした。植樹には、福島の新聞社やテレビ局もかけつけて下さり、複数のメディアによって今回の取り組みを広めていただくことができました。

植樹の後、太平洋に面した海洋施設「アクアマリン福島」へ移動し、海に向かって黙祷を捧げました。このあたりは津波が押し寄せた場所であり、その当時の話を聞くことができました。

学校に戻ってから、代表児童8名による、学年児童(119名)に向けて、三和小学校での交流の様子や被災地の様子についての報告会の場を持ちました。



## 今後に向けて

実際に福島訪問した子どもたちからは、今後も交流を継続したいとの声が上がっています。定期的な手紙のやりとりを続ける中で、桜の成長を見守っていきたくと考えます。また、現在、3年生児童がプロジェクト1年目の活動を行っていますので、「京の杜プロジェクト」を継続していく予定です。